

QUARTERLY JOURNAL OF JAPAN SCIENCE FOUNDATION / SCIENCE MUSEUM

# JSF TODAY

NO.180/SPRING 2026

---

特集 = ゴジラサイエンス展 リポート

---



TM & © TOHO



公益財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

### 目次

●特集	3	● TOPICS	20
ゴジラサイエンス展～脅威に科学で立ち向かう～ レポート		「2025 年度 放射線教育発表会」	20
●第2特集	9	「デジタルでみる東京自然いきもの展」	21
科学技術館・2026 春 新展示 Mirai Arcade (ミライ・アーケード) ～今からキミは未来クリエイター!～ 新登場	9	「第 29 回全国児童生徒地図優秀作品展」	22
あなた自身の手で鮮やかな未来を描き出そう!		「食の多様性を学ぶポーカー」 「カム機構とゼネバ歯車の組み立て」	22
家電リサイクルワールド オープン!	10	ワークショップ「分子模型の組立体験」 「創薬かるた」	23
家電リサイクルを体験を通じて楽しく理解しよう		「さくらまつり2026 in 科学技術館」	23
● REPORT I	14	●海外研修 REPORT	24
大磁展～ SUPER MAGNET TEN ～ 磁石は人も引きつける		タイの科学館を視察 そのリアルな現状と日本の課題 全国科学館連携協議会・2025 年度「海外科学館視察研修」 レポート	
● REPORT II	16	● MORE TOPICS	26
科学技術映像祭から社会を見つめる 「テレメンタリー 2024 “3.11” を忘れない 93 『100 人の証言 命をつなぐ津波避難』」上映会・講演会	16	「第 69 回 全国学芸サイエンスコンクール」 「第 84 回 全日本学生児童発明くふう展」 「ほうけんカンドゥー (社会科見学) サイエンス編」	
「SBC スペシャル 本田先生のこころ診療室 ～発達障害のこどもたち～」記念上映会・本田先生講演会	18	● JSF 掲示板	27
●財団 TOPICS	19	●なにこれ!? 科学技術館事典	28
第 28 回 通常理事会 開催報告 2026 年度の当財団事業計画・予算案を審議・承認			



科学技術館屋上でロケ地ツアーを実施

TM & © TOHO

#### [表紙解説]

◇今を遡ること約 10 年前。庵野秀明総監督、樋口真嗣監督・特技監督のもと映画『シン・ゴジラ』(2016 年公開)の撮影ロケ地として、科学技術館の屋上が使われました。撮影時にはここに大がかりな檣が組まれ、「ヤシオリ作戦」前方指揮所として連日撮影が行われていました。ちなみにヤシオリとは、スサノオノミコトがヤマタノオロチを「八塩折(やしおり)の酒」で酔わせて退治した日本神話からの命名。ゴジラに“大量の血液凝固剤を注入し、結果としてその体内を凍結させる”作戦であり、この作戦に突入するシーンは映画の最も息を呑むクライマックスでもあります。◇それから時は流れて 2026 年 1 月、ゴジラに縁のある

当館で、ついにゴジラと科学をテーマとした特別展「ゴジラサイエンス展」が実現しました。この会期中、ふだんは来館者が入れない屋上も特別に開放し、「ロケ地聖地ツアー」を実施。今号の表紙は、そのツアーの中で参加者の皆さんにも撮影していただいたトリックアート風の写真です。屋上の鉄柵に貼り付けたゴジラ画像を、東京駅近辺のビル群を背景にしてカメラで写すと、あたかもゴジラがそこに出現したかのようなイリュージョンが現れます。◇今、もし“ゴジラ”のような脅威が実際に出現したら、私たちはいったい何をすべきなのか? そうした想像を巡らせながら、ぜひ本展りポートをご覧ください。 〈永〉

特集

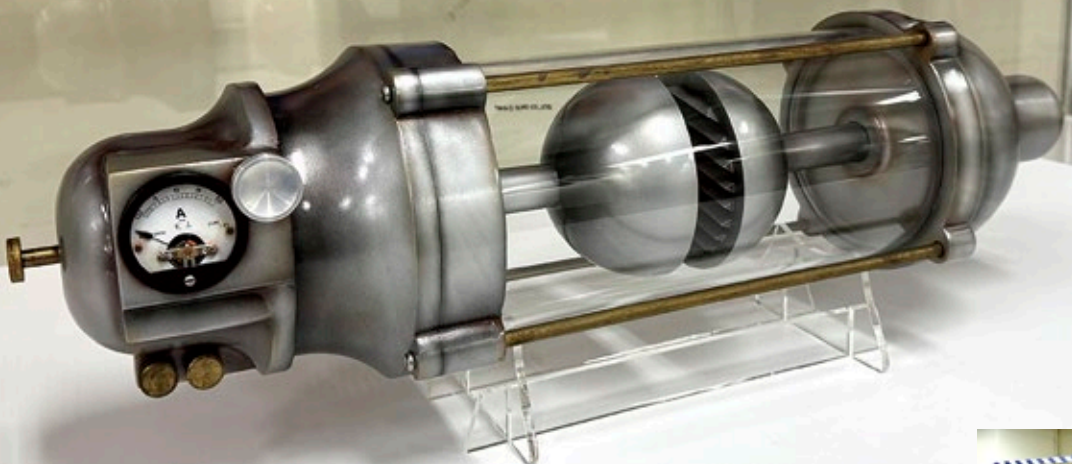
# ゴジラサイエンス展 GODZILLA SCIENCE EXHIBITION

～脅威に科学で立ち向かう～ リポート

1954年の『ゴジラ』の誕生から70年余。ゴジラは、単なる“怪獣”ではなく、戦争や核、環境破壊や自然災害、さらには人間のエゴといった、さまざまな人類の脅威を映し出す“時代の鏡”として、常に現実と地続きの物語を紡いできました。「今、もしゴジラが現れたら？」という想像は、こうした災害の脅威を防止・抑止するための意識を培う契機にもなります。2026年1月、科学技術館ではゴジラを科学の目で解剖・考証し、防災科学や先端科学の観点から未来の提言を行う特別展「ゴジラサイエンス展」を開催し、4万人もの来場者数を記録しました。本特集での同展レポートでは、世代を超えて人々を惹きつけるゴジラのメッセージを見つめ直しながら、私たちが科学技術力をたずさえて進むべき未来のありかを探ります。

# ゴジラから考える、科学の姿と未来

メイン会場は4つのゾーン「ゴジラから知る科学技術」「怪獣が起こす脅威」「ゴジラ対策と防災科学」「大怪獣と未来の科学」に分かれ、映画に登場する造形物とともに科学的な考証パネルや体験コーナーを設置しました。ゴジラを通して見える防災と未来の科学とは――。



1954年公開の『ゴジラ』は、水爆実験によって眠りから覚め、破壊的なエネルギーを持つ怪獣へと進化したゴジラの脅威を描いた特撮映画の金字塔だ。本展の導入エリアでは、劇中で科学者・芹沢博士によって発見・開発され、ゴジラを葬るための兵器となった「オキシジェン・デストロイヤー」を展示。あわせて、この架空兵器が登場する『ゴジラ』、『ゴジラ VS デストロイヤー』(1995)のポスターや、この装置の仕組みを科学的に考察した解説パネルを展示した。劇中で芹沢博士は、“水中の酸素を破壊し、生物を死滅・溶解させる”というこの恐るべき発見が用いられることを恐れ、最後にある決断をする。博士のこの悲痛な決断に込められた思いを汲み取りながら、解説パネルでは、この発見を平和利用する方法を提案した

## 1. ゴジラから知る科学技術

ゴジラ作品には、その時代ごとの社会情勢や科学技術の姿が反映されています。最初のコーナーでは、1954年公開の『ゴジラ』から最新作まで、歴代作品に設定された科学技術に注目。ゴジラの立像や架空兵器の模型とともに“ゴジラの科学”を考証したパネルを設置しました。



平成・VS ゴジラシリーズのゴジラの造形は、どう猛で恐ろしい。その特徴を生物学的な観点から解説したパネルをゴジラの立像とともに展示。2列に並んだ尖った歯はサメ、日差しに強い茶色い目はタカとの共通点があることを紹介した。また、『ゴジラ VS デストロイヤー』(1995)で、暴走により1,000°Cを超える高温となり、怪獣デストロイヤーと壮絶な闘いを繰り広げた“バーニングゴジラ”の体がなぜ赤いのかも科学的に解説した



平成・VS ゴジラシリーズの傑作『ゴジラ VS ビオランテ』(1989)に登場するビオランテは、ある科学者が、亡き娘の遺伝子をバラに結びつけ、そこにゴジラのG細胞を融合させたことから生まれたバイオ怪獣だ。その動物と植物が融合した特性と、体内に宿る人の心がこの物語の鍵となる。解説パネルでは、動物と植物を掛け合わせた研究として、ホタルの遺伝子を使った光る植物の研究、オタマジャクシに薬を注入して脳に酸素を送る研究などのバイオ技術を紹介した

アニメ映画『GODZILLA』3部作(2017-18)に登場する、シリーズ最大級のゴジラ、ゴジラ・アース。植物の細胞由来し、体高約300mを超える姿へと変化した巨大ゴジラで、その皮膚は樹皮のよう。地球の自然環境と一体化しており、環境を破壊する人類は、宇宙へと追いやられる



### ■ ゴジラ×科学技術をテーマに

「もし、今、東京にゴジラが上陸したら」。――1954年に上映された『ゴジラ』(製作・配給:東宝)では、科学の副作用として誕生し、人類が抗えない脅威=ゴジラが描かれています。ゴジラシリーズに登場する怪獣たちは、猛威を振るう災害のメタファーとしても表現されており、人類が科学技術を駆使して立ち向かう物語が紡がれてきました。

ゴジラ作品の中で描かれた科学や現実の防災科学を多角的に深掘りし、未来の安全・安心な暮らしを支える科学について考える、エンターテインメントと科学教育が融合した特別展「ゴジラサ

イエンス展～脅威に科学で立ち向かう～」を、2026年1月15日(木)から27日(火)までの13日間科学技術館1階イベントホール及び2階特設会場にて開催しました。開催にあたっては、企画・制作は当財団・科学技術館と株式会社乃村工藝社が担当し、東宝株式会社に全面的に監修をいただきました。

ゴジラという人気コンテンツと科学技術を掛け合わせた本イベントには、老若男女問わず幅広い世代の来場者が訪れ、防災・減災・予測に対する意識向上に加え、科学技術への理解と期待の醸成に寄与しました。特に家族連れの来場が多く見られたことは、次世代への教育的効果という観点からも意義深い結果となりました。



## 2. 怪獣が起す脅威

このコーナーでは、自然災害と怪獣の脅威を重ね合わせながら防災科学を紹介しました。ラドンが起す強風を突風災害と、ゴジラが起す地響きを地震と比較するなど怪獣の脅威を自然災害に置き換え、防災科学を紹介。週末には強風体験や地震体験も実施し、自然の威力を体感していただきました。



地響きを立てて町を破壊するゴジラの歩行は、しばしば地震や地鳴りに例えられる。そうした大きな揺れを起震車を使って体感いただく「地震体験」を1月24日(土)、25日(日)に屋外で実施し、たくさんのお子さんたちにも参加いただいた。ヘルメットをかぶって体験にのぞんだ7歳と4歳のご兄弟(写真上)は、「少し怖かったけれど、大丈夫だった!」と貴重な体験を振り返ってくれた



『空の大怪獣 ラドン』(1956)の主演ラドンは、長大な翼ですさまじい強風を巻き起こす。解説パネルでは、ラドンの強風の被害を写真で紹介するとともに、強風で大被害をもたらす自然災害として、台風やダウンバーストなどを紹介。また、1月17日(土)、18日(日)には大型扇風機を使った「強風体験」を実施。吹き飛ばされそうになるほどの強風の威力を、実際に来場者の方々に体感していただいた

## 3. ゴジラ対策と防災科学

「ゴジラ級の災害に科学の力で対抗する」をテーマに、自然災害の象徴であるゴジラが上陸した状況を想定した事例検証や、科学技術の象徴であるメカゴジラ、対ゴジラ兵器から考える防災技術、さらに実際に自然災害に対応する防災ロボットや最新技術を紹介しました。



『ゴジラ VS メカゴジラ』(1993)に登場するスーパーメカゴジラは、人間が開発した対ゴジラ兵器。そのボディには人工ダイヤモンドのミラーコーティングが施されており、ゴジラの放射熱を打ち返す。解説パネルでは、現実社会の消防・炉前作業の中で熱や炎から身を守る耐火防護服について紹介。アルミコーティング素材が熱を反射する、といった科学的解説も盛り込んだ。また、『地球防衛軍』(1957)に登場した地底ロボット、モゲラをリメイクし、『ゴジラ VS スペースゴジラ』(1994)に登場したロボット怪獣 M.O.G.E.R.A.(写真奥)の展示も



このコーナーでは、ゴジラや怪獣を封じる架空兵器の精巧な模型、これらの機体が登場する作品のポスター、防災科学に関する解説を並列して展示した。写真の「スーパー X2」は『ゴジラ VS ビオランテ』に登場する陸上自衛隊の架空の対ゴジラ兵器。機体前方にファイヤーマーを装備し、前方が開くとミラーがゴジラの熱線を1万倍に増幅して反射する。解説パネルでは、同機が有人の前身機「スーパー X」での経験を踏まえて無人機となり、自動操縦・遠隔操作で動く機体となった設定を踏まえ、航空消防で活用する構想などについて解説した

人機一体は、人の感覚とロボットの力を融合させ重機を自在に操作し、災害対応や工事などを行う人型ロボット技術で、人間にとって危険な重労働からの解放を目指している。展示されたロボットは、まるで映画に登場する対ゴジラ・ロボットのように迫力満点



### ■ 怪獣の脅威と災害を重ね合わせ、防災科学を紹介

展示は、「ゴジラから知る科学技術」、「怪獣が起す脅威」、「ゴジラ対策と防災科学」、「大怪獣と未来の科学」の4つのテーマと特別プログラムで構成しました。

1954年の『ゴジラ』から最新作までに描かれた科学技術の進歩や、その背景にある社会課題を、ゴジラの立像展示や作品ビジュアルを通じてフィクションの視点から紹介しました。特別体験プログラムでは、ラドンが引き起こす強風による災害を解説し、大型送風機を用いた強風体験を実施したほか、ゴジラによる地響きを地震と比較して説明し、起震車による地震体験を行

うなど、怪獣の脅威と自然災害を重ね合わせながら、防災科学を体感的に学べる展示を展開しました。

さらに、ゴジラ作品における東京上陸の描写を参考に被害状況を想定し、各種防災科学の対応ステップをシミュレーションとして紹介しました。また、高所作業や災害現場で活躍するロボットや最新ドローン技術を取り上げ、映画に登場する対ゴジラ兵器と、現実の防災ロボット・先端技術を比較する展示も行いました。加えて、漫画『ゴジラ ギャラクシーオデッセイ』(漫画・石口十、秋田書店「ヤングチャンピオン」)、「ヤンチャン Web」連載中とのコラボレーションによるオリジナル漫画も、特別展の一部として展示しました。



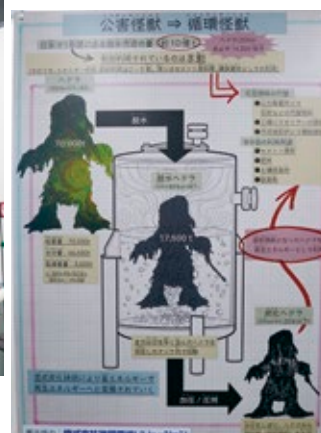
『モスラ』(1961)に登場するモスラは、“平和の象徴”、“地球の守護神”ともいわれる蛾の怪獣。その大型模型の展示近くには、科学体験コーナーを設置した。『ゴジラ VS モスラ』(1992)では、富士山噴火のマグマの中からゴジラが出現することから、体験コーナーでは、水/火山灰/火山灰+水が入った容器を持ち上げてもらい、火山灰が水を含むと想像以上に重いことを体感いただいた。また、モスアイと呼ばれる蛾の複眼の微細突起構造を応用したジオマテック社の薄膜フィルム「g.moth®」や、水や粉を弾く特殊表面加工「g.slip®」の機能も体験いただいた

## 4. 大怪獣と未来の科学

最後のコーナーでは、「これから起きる脅威への対策を考える」をテーマに、富士山噴火などの自然災害を想定し、未来の安全・安心な社会を目指す科学技術の役割を探りました。展示では、ゴジラ作品に関連する先端技術や環境に対する提案を体験展示を交えて紹介。特別漫画や参加者のメッセージボードも設置しました。



漫画『ゴジラ ギャラクシーオデッセイ』(「ヤングチャンピオン」・「ヤンチャン Web」連載中)を特別展示。この展示漫画には科学技術館が協力しており、作品内に当館が登場するもので、熱心に読んでいる来場者の姿が見られた。大型パネルには作者・石口十氏、怪獣デザインの丸山浩氏、科学考証の芝原暁彦氏のサインも



『ゴジラ対ヘドラ』(1971)は、当時深刻化していた公害問題を真正面から描いた作品。高度経済成長の中、排水などによって汚染された海のヘドロから生まれた怪獣ヘドラは、自分を生み出した人間へと襲いかかる。ヘドラの立像の横には、「弱点は乾燥」という設定に着目し、ヘドラを乾燥・炭化させて固形燃料化するという構想を描いたパネルを展示。「公害怪獣」から「循環怪獣」へと転換させる発想は SNS でも話題となった



「科学について自由に書いてみよう!」と来場者に呼びかけ、会場の出口近くに設置した巨大なメッセージボード。ボードには、来場者から寄せられた科学への思いや、ゴジラや怪獣たちを描いた絵が一面に貼られた。お父様の影響でゴジラの大ファンだという“怪獣博士”の男の子(写真上)も、ゴジラ愛あふれるたくさんの怪獣の絵を描いてボードに貼ってくれた



1月25日(日)に館内で講演を行った樋口監督・特技監督から『シン・ゴジラ』のパネルに直筆サインをいただいた。このパネルは閉幕まで特別にメイン会場の出口に展示した

〈経営企画室〉

特別プログラムでは、強風体験・地震体験に加え、館内を回遊しながらゴジラと科学技術に関するクイズに挑戦し、正解数に応じて認定証を受け取れる「ゴジラサイエンス検定」や、展示テーマに関連した有識者を招いたサイエンス講座、さらに映画『シン・ゴジラ』(2016年製作、配給:東宝、庵野秀明総監督、樋口真嗣監督・特技監督)のロケ地となった科学技術館屋上の見学ツアーも実施しました。

### ■ 来場者は延べ 40,000 人超。第 2 弾を期待する声も

特別展に参加された方々のアンケート結果や SNS には、多くの好意的な意見が寄せられ、企画内容への関心の高さがうかが

えました。とりわけ、「ゴジラ」を題材に防災科学を扱った点への評価が高く、再開催や全国巡業を望む声や、第 2 弾を期待する声が数多く寄せられました。開催期間中の特別展会場への延べ来場者数は 40,000 人を超え、土日 4 日間における科学技術館の平均入館者数は約 3,200 人、最多入館者数は約 3,600 人となるなど、非常に多くの方にご来場いただきました。

こうした来場者数の多さや高い評価は、本特別展の満足度の高さを示すものだと感じています。今後も「科学技術×エンターテインメント」という視点で新たな企画を展開し、社会全体の課題解決に寄与していきたいと考えています。

〈総務室 八木 博之〉



## 「サイエンス講座」也大盛況!

ゴジラの監督や科学考証者が  
ゴジラと科学を巡るテーマを深掘り



### 「ゴジラとの出会い、ゴジラにおける科学的視点」 1月25日(日)

樋口 真嗣さん(映画監督・特技監督/『シン・ゴジラ』他)

科学技術館がロケ地となった映画『シン・ゴジラ』で監督・特技監督を務められた樋口真嗣氏による講座は、立ち見も出る大盛況となった。講座では、「ヤシオリ作戦」前方指揮所のロケ撮影に関する裏話も披露。伝説的映画『太陽を盗んだ男』(1979)のクライマックスの対決シーンの舞台が当館屋上だったことがロケ地の決め手にもなったというエピソードも語られた。さらに、宇宙食の展示など子ども時代に当館を訪れた時の思い出、NGとなったゴジラ造形の裏話など、貴重な話題が満載。監督のユーモアあふれる語りに会場は時折笑いにも包まれ、終始、熱気に満ちたものとなった。



### 「ゴジラのバイオロジーとエコロジー」 1月24日(土)

### 「自然災害メタファーとしてのゴジラ」 1月25日(日)

長沼 毅さん(広島大学 名誉教授/安田女子大学理工学部 生物科学科  
学科長・教授/「ゴジラサイエンス展」科学考証)

「ゴジラサイエンス展」の科学考証を担当いただいた長沼先生の講座も超満員。ゴジラの世界をさまざまな科学的・社会的観点から考察する講義が好評を博した。

24日の「ゴジラのバイオロジーとエコロジー」では、「何も食わずに生きていける」ゴジラは単なる「動物」ではなく、「動物的であり植物的でもある」という生物学的特徴に触れ、その生態を考察。また、水爆実験という自然破壊の産物として生まれたゴジラが、体内の核エネルギーをどのように制御しているかなども解説。自然環境や生態系と密接に関わるゴジラを「大自然」のエコロジーの観点から考察した。

25日には、「自然災害メタファーとしてのゴジラ」と題し、ゴジラをさまざまな「災害・人災」のメタファーと捉えた上で、ゴジラ対策を「防災・減災」のメタファーとして位置付け、都市災害などの対応・対策のあり方について解説。その事例として、『シン・ゴジラ』の「ヤシオリ作戦」などにも触れながら、核災害、公害・環境破壊、大震災など、ゴジラ作品に描かれてきた災害メタファーを考察した。終盤、話は太古の隕石衝突による恐竜絶滅にも触れるなど、宇宙にまでテーマが広がった。



### 「ゴジラと地球科学—特撮を支える科学考証の最前線」 1月17日(土)

芝原 暁彦さん(地球科学可視化技術研究所 所長/  
『ゴジラ ギャラクシーオデッセイ』科学考証)

ゴジラの漫画作品の科学考証を担当されている古生物学者・芝原先生の講演も大盛況となった。今回は、ゴジラ作品を通じて地球科学への理解を深めるという、知的好奇心を刺激する内容。1954年の『ゴジラ』からの歴代映画作品から漫画『ゴジラギャラクシーオデッセイ』に至るまで、各作品に登場するゴジラが日本各地の都市へ上陸したルートと、地形データと照らし合わせながら地球科学的観点から読み解いた。また、特撮映画などにおける科学考証の仕事についても解説していただいた。

科学技術館展示棟2階の特設会場で会期中の週末に開催したサイエンス講座では、本特別展の科学考証を担当された長沼毅さん、『ゴジラ ギャラクシーオデッセイ』の科学考証として参加されている芝原暁彦さん、そして、『シン・ゴジラ』の監督・特技監督である樋口真嗣さんをお招きし、「自然の脅威に立ち向かう科学技術」、また科学技術館とゴジラとの関わりなどをテーマにサイエンス講座を実施しました。講座は、開始30分以上前から待機列ができ、講演会場は立ち見が出るほどの盛況となりました。

ゴジラ作品の事例を紹介しながら科学的な視点やエピソードを交えて解説する内容は各講座とも大変魅力的で、

各講座は45分間という長さでしたが、どの参加者も熱心に耳を傾けていた姿が非常に印象的でした。質疑応答では多くの方が積極的に手を挙げて質問されており、内容への関心の高さとともに、理解を深めようとする意欲が強く感じられました。

アンケートでも、最も興味が高まったコーナーとしてこのサイエンス講座を挙げる回答が非常に多く、参加者の関心と満足度の高さがうかがえました。また、講座終了後にも登壇者に質問や感想を直接伝える来場者もおられ、ゴジラ作品と科学技術への興味が一層深まった様子が見受けられました。  
(八木)

# 「ゴジラ聖地見学ツアー」も大人気

## 『シン・ゴジラ』ヤシオリ作戦ロケ地の屋上へ



頭に「ちびゴジラ」のお面をつけたご兄弟。お兄さんは『シン・ゴジラ』を観て以来のゴジラの大ファンだそう。ちょうど「ヤシオリ作戦」の指揮所の舞台となった場所に立ち、「楽しい！」とピースサイン

会期中の土日計4日間で、映画『シン・ゴジラ』(2016)のロケ地となった科学技術館の屋上(「ヤシオリ作戦」前方指揮所)を見学する特別ツアーを開催しました。参加方法は抽選制で、抽選には予想を上回る大変多くの方にご参加いただきました。当選された方々が屋上に向かう大型エレベーター内でも皆笑顔になっていた様子は印象的でした。一方で、落選された方の残念そうな表情も見受けられ、心に残る場面となりました。本誌にて、屋上の様子を少しでも感じてくだされば幸いです。

※「JSF TODAY141号 /2016年夏号」([https://www2.jsf.or.jp/wp-content/uploads/pdf/ab\\_pu\\_201607\\_public.pdf](https://www2.jsf.or.jp/wp-content/uploads/pdf/ab_pu_201607_public.pdf))では、当時のロケ撮影の様子と庵野秀明総監督・樋口真嗣監督・特技監督のインタビューも掲載。あわせてご覧ください。

## 「ゴジラサイエンス展」のさまざまな話題から

関係者列席のもと開幕セレモニーを開催。ゴジラもサプライズ登場!



開幕前日の1月14日(水)午後、当財団の関係者や報道陣をご招待して本展のオープニングセレモニーを開催しました。セレモニーでは、当財団・科学技術館より野依良治館長、山口雅彦専務理事が来賓者に挨拶し、続いて東宝株式会社IP・アニメ本部ゴジラ部の吉川哲矢氏も挨拶をされました。式典の最後には、サプライズでゴジラも登場。式典の後、参列者は開幕に先駆けて展示会場を見学され、スタッフの解説にも熱心に耳を傾けられていました。

ティザー展示では3式機龍ジオラマ、羽田空港モニュメント模型が



本展開催に先駆け、1月4日(日)から1月13日(火)まで、当館2階ギャラリーにて、ティザー展示(先行告知)コーナーを設けました。同コーナーには3式機龍の〈消防モード〉形態が国会議事堂周辺の火災の消火にあたるジオラマや、今年12月(予定)まで羽田空港第3ターミナルに設置されている巨大ゴジラモニュメントの模型などを展示。また、1月10日(土)~12日(月・祝)には小学生以下の来館者に先着順で受付にて特製ステッカーを贈呈しました。

「ゴジラサイエンス検定(クイズラリー)」も大好評!



会期中、来場者参加型の「ゴジラサイエンス検定(クイズラリー)」を実施しました。科学技術館内各所に設置したゴジラに関する問題を解き、ゴジラと科学技術に関する知識を楽しく学べる内容とし、多くの方々に参加いただきました。参加者には、正解数に応じてデザインが異なる「認定証」を贈呈。全館を回遊することで、本展を目的に来館された参加者から「常設展も面白い」との声もいただき、館全体のにぎわい創出につながりました。

ミュージアムショップ特設コーナーやカフェのコラボメニューも



ミュージアムショップでは、会期中にゴジラの特設コーナーを設置。同ショップを運営する株式会社ミュージアムクルーは、Tシャツやクリアファイルなどのオリジナルグッズを製作・販売し、さらに多彩なゴジラグッズも取り揃えて、売り切れが続出するほどの好評を博しました。また、館内レストラン「カフェクルーズ」では、海から上陸するゴジラをイメージした期間限定コラボメニュー「ゴジラマサラカレー」を提供し、食事でもゴジラの世界観を演出しました。

## 特別展「ゴジラサイエンス展 ～脅威に科学で立ち向かう～」

- 開催期間: 2026年1月15日(木)~1月27日(火)
- 会場: 科学技術館1階イベントホール、2階特設会場ほか館内各所
- 入場料: 入館料のみにて入場可
- 主催: 公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館
- 企画・制作: 公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館、株式会社乃村工藝社
- 監修: 東宝株式会社
- 科学考証: 長沼毅 広島大学名誉教授 / 安田女子大学理工学部生物科学科学科長・教授

※このイベントは、公益財団法人JKA 競輪の補助を受けて開催いたしました。

同展のキービジュアルをあしらった  
チラシ・ポスター  
TM & © TOHO



# Mirai Arcade (ミライ・アーケード)

## ～今からキミは未来クリエイター!～ 新登場

### あなた自身の手で鮮やかな未来を描き出そう!



2026年3月1日(日)、科学技術館2階に新たな体験型展示ブース「Mirai Arcade (ミライ・アーケード) ～今からキミは未来クリエイター!～」(出展: 株式会社日立製作所)がオープンしました。カラフルで活気あふれるこのブースは、オープン直後から多くの子どもたちや家族連れで賑わいを見せています。

2階の階段正面にある同コーナーで、夢中で体験を楽しむ子どもたち

#### ■ テクノロジーの力で「社会課題」を解決していく

本展示の最大の特徴は、気候変動や都市の混雑といった複雑な「社会課題」を、直感的なゲーム感覚で解決していく体験にあります。

大きなタッチパネルモニターに最初に映し出されるのは、課題を抱え、淡い色で描かれたどこか寂しげな街の姿。体験者は「未来クリエイター」となり、タッチパネル上で3色の「ミライボール」を操ります。同じ色の課題に目がけてボールを投げ見事に命中すると、テクノロジーを活用した課題の解決例が表示され、街がより鮮やかな姿へと変わっていきます。



ミッションをクリアして、地球を守る未来クリエイターになれたよ!

「お店」「工場」「街」という3つのステージを通じて、自身のアクションでテクノロジーが世界をより良く変えていく。——そのダイレクトな手応えこそが、本展示が提供する最も価値ある体験です。

#### ■ 未来は自分たちで変えられる!

現代社会において、気候変動や都市の混雑といった複雑な「社会課題」の解決は急務ですが、どこか遠い世界の出来事のように感じられがちです。しかし「Mirai Arcade」は、テクノロジーを活用して課題を解決する楽しさを五感で伝えることで、課題を「自分事」として捉える重要性を説いています。

プレイ後のスコア表示は、自分がどれだけ未来づくりに貢献できたかの指標となります。それは単なるゲームの結果ではなく、ひとりひとりの創造性が社会を変える力になるという力強いメッセージでもあります。

科学技術館を訪れた際は、ぜひこの新展示「Mirai Arcade」で、あなた自身の手で鮮やかな未来を描き出す体験をしてみてくださいはいかがでしょうか。

〈科学技術館運営部 中村 潤〉

# 家電リサイクルを体験を通じて楽しく理解しよう 家電リサイクルワールド オープン!

2026年3月6日(金)、科学技術館4階に大型新展示室「家電リサイクルワールド」がオープンしました。一般財団法人家電製品協会との連携により実現した本展示室では、将来の循環型社会を担う子どもたちに向けて、家電リサイクルの意義や仕組みを分かりやすく紹介しています。フロアは「RECYCLE PLANET」「RECYCLE TOWN」「RECYCLE FACTORY」の3つのテーマ空間に分かれ、体験を通してリサイクルの知識を楽しく学べる構成となっています。本レポートでは、完成までの経緯と展示の詳細をご紹介します。

## RECYCLE TOWN

「家電に使われる資源たち」では、実物の家電4品目を解体し、素材を分類して展示

### ■ 家電リサイクル普及啓発への想いを込めて

約3年半の構想を経て、科学技術館としては久しぶりの大規模展示室「家電リサイクルワールド」が、2026年3月6日(金)15時にオープンしました。

一般財団法人家電製品協会(AEHA)は、特に将来の循環型社会を担う子どもたちに「家電リサイクル」の取り組みを紹介するために、2022年8月におおさかATCグリーンエコプラザ(大阪市住之江区)内に常設展示ブースを、また2023年6月には科学技術館4階に「家電リサイクル ベース」を開設しています。後者は、2022年9月にAEHAから科学技術館にお声掛けがあり、AEHA担当者と科学技術館運営部制作グループを中心としたチームで展示をつくり上げました。

「家電リサイクル ベース」の公開後も、AEHAの家電リサイクルの普及啓発への想い、また館との協業が下火になることはなく、より家電リサイクルの意義や仕組みが伝わり、かつ子どもたちに魅力的な展示や施設はどういったものかという議論が続きました。そのような中で、館4階E室「ワンダー・ガレージ」が、イベント開催や休憩スペースとしての場ではあったものの、展示空間になっていなかったことから、ここに家電リサイクルの展示室を構えようという流れとなり、引き続きチームで取り組んだものです。

### ■ PLANET、TOWN、FACTORYの3つのテーマ空間

展示室には入口側から奥に向かって3つのテーマ空間を設けました。手前側が青色の「RECYCLE PLANET」で、宇宙



AEHA・榎理事長によるご挨拶 榎理事長と来賓のテープカットで展示室がオープン



### オープン当日にオープニングセレモニーを開催

オープン当日は14時より、AEHA・榎公雄理事長のご挨拶に始まるオープニングセレモニーが開催されました。当財団・東原敏昭理事長も出席し、館には1964年から約15年間、「電波」「文化機器」展示室として当時の家電製品の展示があったこと、そこから約50年経って家電リサイクルを紹介するかたちになったご縁について紹介しました。続いて、AEHA・星野隆宏環境部部长による展示室の説明があり、関係の方々のご参加に加え、多くのプレスにも取材いただきました。



## RECYCLE PLANET

導入部となる「家電リサイクルが宇宙を救う!?!」では、可愛いキャラクターが家電リサイクルの世界へいざなう



## RECYCLE FACTORY

「最先端！リサイクルプラントに潜入」では大型スクリーンで、貴重なリサイクルプラントの作業映像を紹介

船から地球を望みながら、地球とリサイクルの関係を紹介します。真ん中が橙色の「RECYCLE TOWN」で、日常の街並みや家庭の中で、家電リサイクルの目的や回収方法を紹介します。奥側が緑色の「RECYCLE FACTORY」で、普段見ることができないリサイクルプラントで、廃家電がどのようにリサイクルされるのかを紹介しています。

同展示室では、科学技術館には珍しく、展示室内での動線を設定しています。時計回りにPLANETからTOWNを通過してFACTORYに至り、またTOWNを抜けてPLANETに戻ってくる流れです。次ページでは、その順に個別の展示を紹介します。

### ■ AEHAとの協力体制で、循環型社会のかたちを伝える

この新展示室は、出展者であるAEHAとの濃密なやり取り、またその紹介で、家電リサイクルの各工程の素材提供や撮影許可をさまざまな機関から得て、オープンに至りました。家電リサイクルの意義や仕組みを楽しみながら体系的に学べる施設という目標が少しでも実現できていれば嬉しく思います。

また、展示室の公開で終わりではなく、関連する館内外のイベント開催や、将来的な展示物の更新についてもすでに話を始めています。今後もこの協力体制の中で、サーキュラーエコノミー・循環型社会について多くの方に伝えていく所存です。

〈科学技術館運営部 松浦 匡〉



科学技術館「家電リサイクルワールド」展示室  
(科学技術館 4階E室)

出展：一般財団法人 家電製品協会

展示協力企業等（順路順）：

パナソニック エコテクノロジーセンター株式会社  
株式会社フューチャー・エコロジー  
平林金属株式会社  
JFE アーバンリサイクル株式会社  
一般社団法人 JBRC  
株式会社アステック入江

展示協力機関（50音順）：

江戸東京博物館  
Olympic Foundation for Culture and Heritage  
(オリンピック文化遺産財団)  
千代田区 千代田清掃事務所  
東京都環境局  
東京都公文書館  
東京二十三区清掃一部事務組合

# RECYCLE PLANET

—リサイクルと地球—

## 地球と家電製品のひみつ

展示室は、まずはゲームなどで興味を持ってもらう設計となっています。最初のゲーム「出発！天然資源探査号」では、家電製品の素材となる天然資源について学べます。



天然資源が地球上至るところにあることをゲームで体験中！

## 家電リサイクルが宇宙を救う!?

カーデン星からやってきた「デンデン」と地球人の「リサ」が、地球と家電リサイクルの関係を調査しに出発します。



展示室入口にある映像内の合言葉は「まだ希望はある！地球には家電リサイクルがある！」

## 家電リサイクルで地球を守ろう！

ゲーム「出動！地球クリーン大作戦」などで、リサイクルが確かに地球を救うことを体験できます。



「ここで学んだ家電リサイクルを実践して」という展示室全体のメッセージも

# RECYCLE TOWN

—暮らしとリサイクル—

## リサイクルのタイムトラベル

コンテンツ「リサイクル歴史絵巻」を中心に、江戸時代にも資源循環的な取り組みがあったこと、その後今日に至るまでの流れを紹介します。



デジタル歴史絵巻を繰るお子さん。絵巻の最後には「わたしたちがめざす未来の姿」が

## 家電リサイクル



## 新しい家電に生まれ変わる！

実際に家電に使われている再生プラスチックの展示と、コンテンツ「家電くるくるリサイクル」によって、資源の再利用を紹介しています。



実際の家電の再生プラスチック部品も展示

## 正しくリサイクル！

AEHAによる各種の動画で、家電リサイクルの正しい方法を学べます。



無許可の回収業者にはご用心！

# RECYCLE FACTORY

## —リサイクルの科学と技術—

### 家電をリサイクルに出そう！

クイズ「家電わけわけタイムアタック」などを通じて、家電4品目とその他でリサイクル工程が違うことを体験できます。



家電・小型家電・どちらでもないものに分別するゲーム

### 家電に使われる資源たち

家電リサイクルの対象となるテレビ・エアコン・冷蔵庫・洗濯機の4品目を解体し、大きく金属・電子基板とプラスチックに分類して展示しています。

家電4品目を解体しシンボリックに展示

## ワールド 基本順路



### 暮らしの中のリサイクル

リビングを模した空間で、小型家電とそのリサイクルについて紹介しています。バッテリーの取り扱いに関するクイズ「知ってる？ 充電式電池」もあります。



モバイルバッテリーの正しい捨て方を問うクイズに見事正解！



家電4品目のキャラクターたちが刻まれた金メダルは、電子基板を再利用してこの展示室用につくられたもの

### 最先端！リサイクルプラントに潜入

コンテンツ「リサイクルプラントツアー」の他では見られない映像で、4品目の受け入れ・解体・破碎・選別を追いかけられます。



実際のリサイクル工場を貴重な映像で紹介

### リサイクル原理ランド

メカ展示「マグネットクレーンゲーム」では磁力選別、「シューティングゲーム」では非鉄金属選別、また「プラスチック選別ゲーム」では比重選別・静電選別・赤外線選別を体験できます。



さまざまな体験ゲームにお子さんたちも夢中。楽しみながらリサイクルの原理を理解できる

### 家電から回収された資源たち

リサイクルプラントに受け入れられた後に解体・破碎され、また各種の選別技術で選別された鉄・銅・アルミニウムとポリプロピレン・ポリスチレン・ABS樹脂を展示しています。



実際の資源をリサイクルプラントの協力で展示



1

REPORT I

SUPER MAGNET TEN

# 大磁展

## 磁石は人も引きつける

科学技術館では2026年春、特別展「大磁展～SUPER MAGNET TEN～」を2階特設会場にて開催しました。当館が貸し出しを行っている、磁石をテーマとした2つの巡回展示を融合した展示とともに、さまざまなワークショップを行い、来場者の皆様に磁石の世界を楽しんでいただきました。

※今回の巡回展示物の貸し出しの詳細はこちらからご覧いただけます。

<https://www.jsf.or.jp/business/travel/>



2

2026年3月5日(木)から4月5日(日)まで、春休み特別展として「大磁展～SUPER MAGNET TEN～」を開催しました。通常は全国の科学館等へ貸し出している巡回展示物の中から、「マグネット展」(1999年運用開始)と「究める!マグネット展」(2012年制作、2013年運用開始)を一堂に展示し、磁石の多様な性質が体験できる構成としました。

また、館内スタッフに加え、フォステクス(フォスター電機株式会社)、「Chim-Don ひろば」のコーエー企画株式会社や東京学

芸大学公認理科教育系サークル「Aggressive!!」などにもご協力いただき、磁石に関連する実験ショーや工作教室などのワークショップ(全7プログラム、延べ19日間)を実施しました。

会場には連日多くの来館者が訪れ、途切れることなく賑わいを見せました。来館者はじっくりと時間をかけて展示を体験したり、保護者が解説しながら子どもと一緒に体験したりする様子が見られ、生活に密着したテーマならではの高い関心がうかがえました。

(科学技術館運営部 遠藤 紀子)

### 連日開催のワークショップも大好評

会場奥にはワークショップ・コーナーを設けて、館内スタッフや外部協力者が実験ショーや工作教室を開催しました。

館内スタッフ企画では4つのプログラムを実施しました。「科学マジックショー」では科学手品を展開後に、同じ原理を使い、ご家庭でもできる実験を行い、「モーターのしくみを知ろう」ではプログラム担当者自作の模型を使い、モーターのしくみを紹介しました。さらに、「ぱたぱたマグネット」はマグネットシートを使った工作で、低年齢の子でも可愛いタヌキやカニを作ることができました。

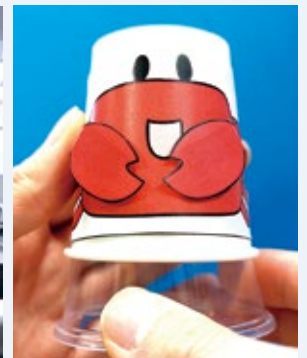
私が担当した「磁石って何者? ～鉄となかよし?～」では、磁石は「よく使うのに、意外と詳しく知らないもの」であるため、できるだけ簡単な器材を使った実験ショーとしましたが、磁石をはじめ小さいものが多かったため、1人でカメラ2台を切り替えることに加え、その場で映像を拡大するかたちでパワーポイントを使用したのは初めてで、とても良い機会をいただきました。

ほか、外部からは、学生の皆さんにも協力いただきました。東京学芸大学の理科教育系サークルの学生による実験教室も2日間開催しました。学生の皆さんが自作した実験器材での体験を中心にした教室で、エネルギーな学生の進行に保護者の方々の表情も和やかでした。

(荻野)



「磁石って何者? ～鉄となかよし?～」: カメラ2台を使い実験の様子をスクリーンに映し出しながら、鉄を使った楽しい実験で磁石の性質を解説した



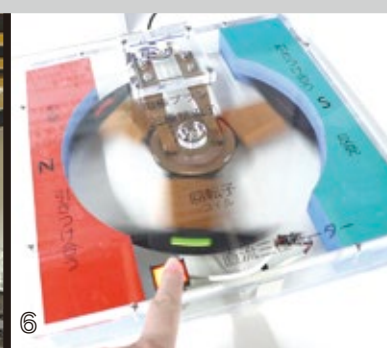
「ぱたぱたマグネット」: マグネットシートの特性を活かし「腕」がぱたぱたと動く可愛い工作を行った



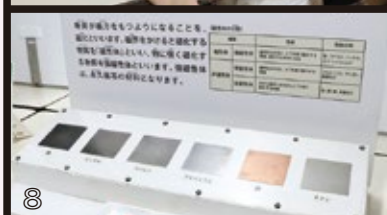
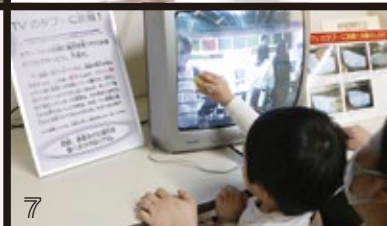
「科学マジックショー」: お家でも同じ原理を使って楽しめるよう、身近な素材を使い、磁石を使った不思議な科学手品を披露した



「モーターのしくみを知ろう」: 磁石などで動くモーターのしくみを解説。後半は工作キットでモーターづくりを楽しんでいた



1.「空中に浮いた椅子」: 男の子が座っても、下方の磁石同士は反発し合い浮いた状態に／2.「ネオジム磁石とパチンコ玉 3000 個」: 強力ネオジム磁石にパチンコ玉をつけて磁力を実感／3. 連日大盛況の「大磁展」会場／4. 「磁力を表す線」: 方位磁石で磁力線を観察／5. 「磁石であそぼう」: パズルは小さなお子さんにも人気／6. 「3 極大型モーター」: 回るモーターのしくみを観察／7. 「TV のタブーに挑戦」: 磁石を画面に近づけると磁力線の縞模様が見える！／8. 「磁石となかよし」: いろいろな金属に磁石を近づけてみると……／9. 「電磁石の磁力」: コイルの巻き数などで電磁石の力が変わります／10. 「エレキギター」: 楽器の部品にも磁石が……



■ 想像を超えるお客様の反響でわかったこと ■

以前、「究める! マグネット展」の制作に携わったこともあり、今回担当させていただき、私自身も会場にいる時間を楽しみながら、現場対応をしました。その中で、お客様に「磁石は材料で 4 種類に分けられ、種類によりさまざまな特徴がある」ということをお話しすると、「知らなかった」と興味を持たれるお母さまが多かったです。制作者としても嬉しい限りです。

会期の後期には、展示物を追加しましたが、その中でも一番、来場者の体験時間が長かったのが「ネオジム磁石とパチンコ玉

3000 個」でした。超強力な磁石にパチンコ玉を付けては剥がす作業を小学生のお子さんはもちろん、大人の方々も繰り返していました。

本展は、私たちスタッフの想像を超える入室者数、滞在時間の長さを記録しました。この会場だけで 1 時間以上いらっしゃる方も珍しくなく、親御さんが「ほかの展示室も見なければ」とお子さんを何とか展示物から引き剥がすも、すぐにお子さんが戻ってきてしまうなど、磁石は老若男女、人も「引きつける」ことができることを改めて知りました。 (科学技術館運営部 荻野 亮一)

「磁石で『音』!? 本格スピーカー工作教室」

子どもから大人まで世代を超えて「本物」のスピーカー製作



上)参加者はステレオで音楽を楽しめる2つ一組を工作。金属のフレームに塗る接着剤は丁寧に(右) 小学生から大人まで幅広い年齢層が同時に参加(右) 完成したスピーカーの音を講師とともに確認

2020 年から毎回大人気のスピーカー工作教室が、「大磁展」の開催にあわせて、3 月 31 日(火)と 4 月 4 日(土)の 2 日間、開催されました。世界中の音楽ファンだけでなく専門家も愛用するスピーカーやヘッドホンで知られるフォステクス(フォスター電機株式会社)の協力のもと、磁石の力で音が生まれるスピーカーのしくみを学びながら、同社の製品と同じ部品で「本物」のスピーカーを作り上げていく工作教室。今回は小学生、中学生だけでなく、幅広い年齢層の大人を含む 50 名を超える申し込みがありました。大学生や大人からは、専門的な質問が工作終了後まで続く盛り上がり。「大磁展」と連動した今回は、小中学生も、講師の丁寧な解説により、学校の理科で学ぶ内容への理解を深め、世代を超えて学んだ 2 時間はあっという間でした。(経営企画室 加藤 太一)

チラシにも面白いしかけ!



館内のチラシ・ラックにも設置

今回のチラシは広報担当スタッフにかなりわがままを形にしてもらいました。写真をご覧ください。1 枚でも成り立ちますが、複数枚で大きな絵にしたい、それでできた磁石を切り抜いて教材にできるようなレイアウトにしてほしい、アルファベット表記を「SUPER MAGNET TEN」とすることで、両端に S と N を配置したいなど……。展示を制作した頃に形にできなかったことや本展の打ち合わせ中に思いついたことだったので、これらを形にしてくれた広報担当にも感謝します。手に取られた方々に気付いていただけるかどうか分からないような細かい工夫が多かったので、自分が担当した実験ショーに早く集まっていた参加者に、工夫点もお話しました。こちらの誌面も、収納時の棒磁石がイメージされています。(荻野)



# 科学技術映像祭から 社会を見つめる

「第 66 回科学技術映像祭」では、科学を通じて社会的なメッセージを伝える作品が優秀作品に選出され、大きな注目を集めました。当財団では、こうした映像作品が持つ発信力を認識し、製作者や出演者が作品に込めたメッセージをより広く社会へ届ける取り組みとして、3月に2つの上映会・講演会を開催し、いずれも大きな反響を呼びました。その模様を関係者のコメントとともにご紹介します。



本事業は、一般社団法人  
授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS) の  
共通目的基金の助成を受け実施されています。

科学技術映像祭  
<https://ppd.jsf.or.jp/filmfest/>

## 第 66 回科学技術映像祭・内閣総理大臣賞受賞 作品

「テレメンタリー 2024 “3.11” を忘れない 93 『100人の証言 命をつなぐ津波避難』」 上映会・講演会

# 「私たちは災間を生きている」。津波避難の教訓を心に

### ■ 映像で津波避難の実態と命を守る行動を示す

2026年3月7日(土)、宮城県仙台市の東日本放送ぐりりホールにおいて「第 66 回科学技術映像祭 内閣総理大臣賞受賞作品 上映会」が開催されました。本上映会は、科学技術映像の優れた成果を広く社会に伝えるとともに、映像を通じて得られる知見や教訓を共有することを目的として実施されたものです。

当日は、科学技術映像祭の永野博運営委員長による開会挨拶に続き、株式会社東日本放送の藤ノ木正哉代表取締役社長より開催にあたっての言葉が述べられました。その後、内閣総理大臣賞受賞作品である「テレメンタリー 2024 “3.11” を忘れない 93 『100人の証言 命をつなぐ津波避難』」が上映され、東日本大震災における津波避難の実態と、命を守るための行動の重要性が改めて示されました。

### ■ 震災の記憶と教訓を未来へつなぐ取り組みとして

続く講演では、石巻市立門脇小学校の元校長である鈴木洋子氏が登壇し、震災当時の学校現場における判断や避難行動について、自身の経験を交えて語りました。その中で語られた「私たちは災間を生きている」という言葉は、災害と災害の間に生きる私たちの日常そのものを問い直すものであり、会場の空気を一変させるほど強い印象を残しました。現場での迅速な意思決定と日頃の備えの重要性が改めて共有され、参加者は真剣な



同作品より。被災した石巻市立門脇小学校を映し出したシーン

面持ちで耳を傾けていました。

さらに、「教訓を心に」をテーマとしたパネルディスカッションでは、東日本放送アナウンサーの鈴木奏斗氏、鈴木洋子氏、公益社団法人 3.11 メモリアルネットワーク専務理事の中川政治氏が登壇し、震災の記憶をどのように次世代へ伝えていくかについて意見が交わされました。映像の持つ伝達力や、語り継ぐことの意義について多角的な議論が展開され、来場者にとって深い学びの機会となりました。

本上映会は、科学技術映像の価値を再認識するとともに、防災・減災の意識を高める重要な場でもありました。震災の記憶と教訓を未来へつなぐ取り組みの意義を、改めて実感する機会となりました。  
(人財育成部)

## 作品製作者・出演者からのメッセージ

今回の上映会・講演会に登壇された製作者・出演者の皆様に、この作品と避難行動に関するメッセージをお寄せいただきました。命を守るために大切なことは何か？——ぜひご覧ください。



### かけがえのない命を守るため 学校と地域が共に避難の推進を

石巻市立門脇小学校 元校長  
鈴木 洋子さん

「100人の証言」の映像をご覧ください。「避難の連鎖」の二つの流れが多くの人々の命を救った実相について、うかがい知れます。①児童の避難に保護者や地域住民が続きました。②住民対応していた教職員が山への児童の避難を伝えたことにより、それが伝播して校庭の退避者も日和山を目指しました。

こうした「強い地震が発生したら津波襲来を予測し、迅速に高台へ避難する行動」は、かけがえのない命を守ることに繋がるものと思われま。災間を生きる私たち。防災について、学校と地域が共に推進していくことが求められます。



### 人を救うのは人。この映像が 命を守る力になることを願う

公益社団法人 3.11 メモリアルネットワーク  
専務理事  
中川 政治さん

東日本大震災の体験を地域の店主からうかがう中で「すぐには逃げていない」現実気づかされ、石巻南浜津波復興祈念公園の予定地で2016年から聴き取りを始めたのが「あの時プロジェクト」。地元の放送局が、「避難の連鎖」や地域のつながりを見事に可視化してくださいました。118名の思いと行動の積み重ねが「科学技術」の評価につながったことも励みになります。

デジタル化、AIの時代でも、人を救うのは人です。この映像をご覧になった方が、「避難の連鎖」のお一人目として南海トラフ地震等の巨大災害から命を守る力となることを、心から願います。



同作品より。2011年の東日本大震災直後、山へと避難する門脇小の鈴木先生(中央)と児童たち。迅速な判断で多くの命が救われた。作品では、約4,000人が犠牲となった石巻市で、生き残った住民約100人から証言を聴き取り、当時の行動をCGで再現。命を守る避難行動を検証した



### 被災地の放送局の課題として 避難の教訓を掘り起こし続ける

khb 東日本放送 アナウンサー／  
本作ディレクター、ナレーション  
鈴木 奏斗さん

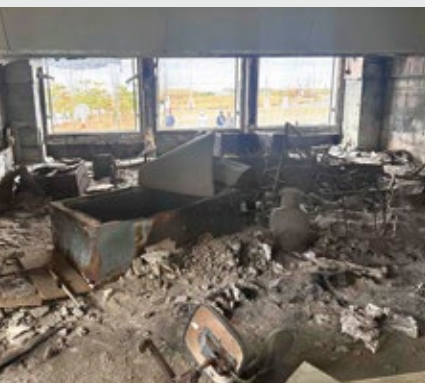
「避難の教訓を全国に伝え続けなければならない」。その思いが本作の原点でした。東日本大震災の大津波を知らない世代が増える今、どう自分のこととして捉えてもらうかが、被災地の放送局の課題だと感じています。今回は、科学の視点から避難を検証し、住民の証言と重ねることで新たな発見がありました。

放送後、「自分ならどう避難するか考えた」といった声も寄せられ、教訓を掘り起こし続ける意義を実感しました。災害が起きた時に命を守るのは、準備と心構えです。その一歩につながるきっかけになることを願っています。

## 石巻市震災遺構・門脇小を訪ねて

今回の上映会を機に、当財団法人育成部のスタッフが、この作品に登場する石巻市立門脇小学校を訪れました。震災で甚大な被害を受け、今は震災遺構となっている被災現場で感じたことは——。

宮城県石巻市にある門脇小学校震災遺構を訪れた。校舎は東日本大震災による津波とその後の火災の爪痕を今も色濃く残し、当時の状況を静かに語りかけてくる。黒く焼け焦げた外壁やむき出しになった内部は、災害の激しさを視覚的に伝えるとともに、命を守るための判断の重みを強く印象づけた。一方で、児童や教職員が高台へと迅速に避難し、多くの命が守られた事実は、日頃の備えと判断力の重要性を示している。現地を歩く中で、震災は過去の出来事ではなく、現在につながる教訓であることを実感した。遺構は単なる保存ではなく、未来への問いかけとして存在している。 (K)



瓦礫や備品が散乱する室内や正門の傷痕が、当時の災害の威力を静かに語りかけてくる



焼け焦げた教室や、校舎裏から見た遠い海。震災からの教えがここにある

「遠い。この景色にさらに当時のような住宅街があれば、ここまで津波の襲来があるとは予想しないだろう」——門脇小・校舎裏にある避難ルートの日和山丘陵から800m先の石巻湾を見た時、私は自問した。「ここから、さらに高台へ避難をしようと自分は思うのか」。その答えを確認したかった場所に立ち、自分自身の認識の甘さを痛感した。震災遺構となった門脇小の中で感じたものは、津波火災の痕跡から微かに感じた焦げ臭さ、焼土や焼け焦げた机、津波の痕。まるで震災当時のような寒さのなか、震災遺構の数々が身体中のさまざまな感覚を通して、その甚大な被害を訴えてくる。「決して過去のことではない。私たちは災間を生き延びる」。——鈴木先生らの伝承や若くして震災を経験した児童が記した生き抜く力の教えがここには無限にあった。これらを肝に銘じ、未来の人の命を繋げる行動をしたいと強く感じた。 (Y)

## 第 66 回科学技術映像祭・文部科学大臣賞受賞 作品

「SBC スペシャル 本田先生のこころ診療室  
～発達障害のこどもたち～」 記念上映会・本田先生講演会

## 「発達障害」への理解と 「教育メンタルヘルス」の環境づくりを

2025 年の「第 66 回科学技術映像祭」にて文部科学大臣賞を受賞した信越放送株式会社製作のドキュメンタリー番組「SBC スペシャル 本田先生のこころ診療室 ～発達障害のこどもたち～」。この受賞を記念した上映会と、同作品に登場する児童精神科医・本田秀夫先生の講演会を 2026 年 3 月 28 日（土）、東京都北区の北とびあにて開催しました。

この作品は、信越放送制作部の宮川伊都子さんが 2022 年に企画。本田先生が診療にあたる信州大学医学部附属病院「子どものこころ診療部」で、本田先生のもとを訪ねる子どもたちとの日常を 3 年間にわたって記録したもので、先生と子どもたちとの自然体の対話を通じて「発達障害」とは何かをありのままに伝える秀作です。今回の催しは、告知後すぐに定員 100 名が満席となり、「発達障害」への関心の高さがうかがえました。

### ■子どもたちのストレスを軽減できるように

作品鑑賞後の講演会で本田先生は、「子どものこころの診療から見える学校」をテーマに、ASD（自閉スペクトラム症）、ADHD（注意欠如多動症）、LD（学習障害）など「発達障害」について解説。これらの障害のある子どもたちが、幸福に成長していける学校や社会のあり方について提言されました。先生は、日本社会の「心の幸福度」の低さや不登校の増加を指摘し、その要因のひとつとして、一斉授業についていけない発達障害の子どもたちが、自己肯定感を持って辛い環境に置かれがちな現状を挙げられました。

その解決策として先生は、「教育メンタルヘルス」という言葉を掲げ、子どもたちのストレスを軽減できるよう、期待や一律なノルマは押し付けず、個々の興味を尊重するなどして多様性に配慮し、学校という社会の構造そのものを変えていく必要があることを強調されました。

質疑応答時には、発達障害のお子さんの子育てに悩まれる保護者の方からの質問が後を絶たず、この問題が、いかに身近なものであり、多くの人々が周囲の助けや社会の対応を必要としているかを再認識する機会となりました。この作品の制作に関わった方々の「発達障害への理解をより広げたい」という切実な思いを、当映像祭も、全国での上映会などを通じて後押ししていければと考えています。

〈人財育成部／経営企画室〉



同作品より。本田先生の診察室を訪ねてくる発達障害の子どもたちとの日常を追うドキュメンタリー。同作品は「映画文連アワード 2025」最優秀作品（グランプリ）にも輝いた

### 「発達障害」の子どもが相談できる場をもっと広げたい



信州大学医学部 教授／  
附属病院子どものこころ診療部 部長  
本田 秀夫 先生

信越放送株式会社  
情報センター制作部主幹／本作ディレクター  
宮川 伊都子さん

宮川：番組の中で私も「発達障害はどういう障害ですか?」と聞いているように、「発達障害」そのものはもちろん、本田先生の考え方もまだまだ世の中に知られていないと思いました。そのため番組制作は、「ならばそれを代弁し、入門編のような形で作れないだろうか」という気持ちでスタートしました。出演していただいた患者さんは、学校生活の中で困っていることも多く、その困りごとや、先生の考えをもっと社会に広め、現状を訴えるためには、自分たちが出演することで、協力できるのではないかと考えている方が多かったように感じます。撮影は、診察室近くで待機し、先生から「取材OKです」と連絡をいただいたら、すぐに診察室に入るという形を取りました。朝から夕方まで待機して約 20 組のうち取材ができたのは 1 組だけという日もありました。

本田：精神科の患者さんはあまり出てくれないんですが協力的でした。ただ守秘義務があるので、事前に了解をいただけた方だけ見学に入れていますね。

宮川：「発達障害」で悩まれている方は大勢いるのに、本田先生のような確固たる信頼できる大人や、相談できる場所もまだ少ないんです。ですので、皆さん、先生に診ていただきたい、と殺到しています。本当はそういう相談場所や、親以外にも信頼できる大人がもっといる状況になればいいと思います。

本田：科学館といった場所での提案としては、「発達障害」のお子さんの中には、すぐマニアックに博物館の学問に興味がある子がいます。普通の博物館にはないような「超マニアック」な企画のようなことをやると、そうしたお子さん方が集まります。子ども向けではない、大人が関心をもつようなテーマの方が、独特の感性を持ったお子さんに響く可能性がありますね。

〈談〉

### 学生部門では若者の社会問題もテーマに

#### 学生部門奨励賞〈長編〉受賞作品

#### 「私を守るのは わたし～オーバードーズの危険」

第 66 回の同映像祭から新設された「学生部門」では、若者を取り巻く社会問題となっている市販薬のオーバードーズ（OD）をテーマとした作品「私を守るのはわたし～オーバードーズの危険」が学生部門奨励賞〈長編〉を受賞しました。椋山女学園大学・柝窪ゼミの学生の皆さんが企画・制作にあたり、OD 経験者や専門家に取材を敢行。データや生の声を交えながら、同世代からの目線で OD の現状を掘り下げ、防止を呼びかけるメッセージを込めています。この作品は同大学の YouTube チャンネルでも公開されています。

<https://www.youtube.com/watch?v=-i0TB2j6X4>

#### 若者に多いオーバードーズの危険性を多くの人に伝えたい

椋山女学園大学／本作ディレクター  
徳毛 琴音さん



同作品より。作品を製作中の学生たち



オーバードーズは、若者、特に若い女性に多く見られる。そこで、女子大学生といった同じ年代だからこそ伝えられるメッセージや、オーバードーズの危険性を多くの人へ伝えたいという想いからドキュメンタリーの制作を行った。また、制作を通じて、多くの方にオーバードーズはどのようなものかを知ってもらうことができた。

椋山女学園大学で開催されたフォーラムや YouTube で公開されたことにより、不特定多数のさまざまな方へ映像を通してメッセージを伝えることができた。最後に、この作品で届けたいのはオーバードーズは決して他人事ではないということだ。自分自身や周りの大切な人がいつオーバードーズをしてしまうかは分からない。周りがどのようにサポートしていくかが非常に重要である。最悪の場合死に至るオーバードーズ。この危険性をこれからもこの映像から多くの方へ伝えていきたい。

## 第28回 通常理事会 開催報告

# 2026 年度の当財団事業計画・予算案を審議・承認

2026年3月19日(木)、公益財団法人日本科学技術振興財団の第28回通常理事会を科学技術館事務棟第3会議室にて開催しました。当理事会における審議・承認内容についてご報告いたします。



科学技術館事務棟第3会議室にて開かれた通常理事会の様子

3月19日(木)に科学技術館にて開かれた第28回通常理事会では、当財団の東原敏昭理事長が議長を務め、11名の理事および2名の監事にご出席いただき、また、8名の評議員にご同席いただき審議を行いました。

同理事会では、2026年度事業計画及び2026年度収支予算書ならびに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の承認の件、特定費用準備資金等の保有に関する承認の件、役員賠償責任保険(D&O保険)の契約の件について、評議員の方々にもお聞きいただきながら理事による審議を行い、いずれ

も原案どおり承認されました。

また、2025年度の第2回業務執行報告として、2025年4月から12月までの業務執行状況についての報告、財団の活動状況としてのトピックス(イベント計画等)の報告、および科学技術館建て替えの検討状況についての報告がありました。

会議において、評議員ならびに理事の方々から、当財団の活動に対する数々の貴重なご意見やアドバイスをいただきました。これらを吟味検討し、今後の財団運営に活かしてまいります。  
(総務室 山田 智一)



通常理事会の議長を務めた当財団の東原敏昭理事長

日本科学技術振興財団ウェブサイト  
<https://www2.jsf.or.jp/>

### 2026 年度事業計画、事業活動の概要

#### I. 科学技術振興事業 (924 百万円)

##### 1. 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営保守支援

- 1-1. 科学技術館の運営事業
- 1-2. 他館の運営
- 1-3. 教育文化施設に対する企画・開発支援・保守事業

##### 2. 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催

- 2-1. サイエンス友の会の活動
- 2-2. 科学技術体験イベントの開催
- 2-3. 科学オリンピック国内大会・国際大会
- 2-4. 教員のための理科実験指導育成講座開催
- 2-5. 科学技術映像祭の開催と優秀作品の上映
- 2-6. エネルギー・放射線等に関する理解増進活動

##### 3. 科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究

#### II. 情報システムの設計開発と運用サービス事業 (397 百万円)

- 1. カスタマーサクセスを実現するサービスの提供
- 2. リモートワークを活用した事業エリアの拡大
- 3. 部門間連携によるシナジー創出とデジタル化の推進
- 4. 顧客との協業による新規事業・商品の開発
- 5. 組織の体制強化とマネジメントの安定化

#### III. 科学技術館施設の利用促進事業 (478 百万円)

- 1. 建物および建築設備の維持管理
- 2. 館施設の活用

※詳細はこちらからご覧いただけます。

日本科学技術振興財団 公開情報

<https://www2.jsf.or.jp/about/disclosure/>



# 未来の放射線教育を支える 交流の場に

2025年12月27日(土)、科学技術館1階イベントホールにて、当財団主催による「2025年度放射線教育発表会」を開催しました。例年、学校の冬休み期間である年末に、全国の放射線教育の関係者や放射線を学ぶ学生らが一堂に会する発表会で、今年度も「放射線教材コンテスト」ならびに「放射線授業事例コンテスト」の入賞作品の発表やパネルディスカッションを行いました。

「放射線教育発表会」は、小・中・高等学校における放射線教育の一層の充実を目的として、例年、当財団の主催および各関係団体の後援のもと科学技術館で開催しています。2025年度も、「放射線教材コンテスト」ならびに「放射線授業事例コンテスト」の2つのコンテストにおける受賞作品の発表とともにパネルディスカッションを行いました。

### 優秀な教材と授業事例を表彰。発表も

「放射線教材コンテスト」には、放射線(教育)分野等を専攻する大学生、高等専門学校生等から244作品の応募がありました。児童・生徒が放射線について主体的に学べるよう工夫された教材が数多く寄せられ、最優秀賞2件、優秀賞8件、特別賞6件が選出されました。いずれの

### 「放射線教材コンテスト」最優秀賞(2校)



上) 兵庫医科大学(応募代表者:船生翔太郎さん)「フラットライトで核医学診療(検査・治療)を理解しよう!!」の発表

左) 佐世保工業高等専門学校(応募代表者:佐藤惇哉さん)「Mixed Reality 放射線測定実験教材」の発表

作品も、学校現場での活用を強く意識した内容となっており、放射線教育の可能性を広げる内容が評価されました。

「放射線授業事例コンテスト」には、小・中・高等学校の教育関係者から115作品の応募があり、授業実践や教材・教具の開発、学習指導案など、現場での経験を生かした多様な事例が集まりました。審査の結果、最優秀賞1件、優秀賞2件、入選6件、特別賞6件が選ばれ、今後放射線教育を検討・実践する教員にとって参考となる内容が評価されました。

当日の会場では、これら2つのコンテストを受賞した学生の皆さんの教材実演や先生方の授業事例の発表が各ブースで行われ、参加者が熱心に聞き入っている様子が見られました。会場ではその他、関連団体・教育機関による出展ブース、

当財団が運営する「放射線教育支援サイト“らでい”」の紹介ブースも設け、多くの方が足を止めていました。

### 真摯な意見・情報交換の場に

さらに、「福島に学ぶプロジェクト」に参加された先生方に登壇いただき、福島の放射線教育の現状レポートとともに、パネルディスカッションが行われました。特に、福島県での事例、福島県在住の児童生徒の想いに触れながら、日本全国での放射線教育の未来・展開について、熱心な議論が繰り広げられました。会場には、放射線教育に携わる学生、先生方、関係者が全国各地から集い、あちらこちらで活気ある交流が図られました。

〈総務室付エネルギー・環境プロジェクト/経営企画室〉

### 「放射線授業事例コンテスト」最優秀賞



福島県相馬市立向陽中学校(佐藤拓也先生)「Kahoot!を活用した放射線教育の実践と効果に関する考察」の発表

### パネルディスカッション



パネルディスカッションでは福島での放射線教育の現状と展望を発表。熱い議論も交わされた

### 「2025年度放射線教育発表会」

#### ●後援団体

東京都教育委員会、福島県教育委員会、全国小学校理科研究協議会、全国中学校理科教育研究会、日本理化学協会、公益社団法人日本理科教育振興協会、NPO法人放射線教育フォーラム

#### ●放射線教材コンテスト

<https://www.radi-edu.jp/contest>

#### ●放射線授業事例コンテスト

<https://www.radi-edu.jp/case-contest>

#### ●福島に学ぶプロジェクト

<https://www.radi-edu.jp/fukushima>

## 緑に囲まれた科学技術館で、 東京の自然をデジタルで探究

2026年1月24日(土)から2月23日(月・祝)までの約1カ月間、科学技術館3階G棟にて、東京都環境局主催の体験型イベント「デジタルでみる東京自然いきもの展」が開催されました。会場にはたくさんの団体見学の生徒たちやご家族連れが足を止め、デジタル技術を活用したコンテンツで東京の自然探究を楽しみました。



「東京いきものAR図鑑」を2種類のモードを選んで体験！夢中になってタブレット端末で生きものを探します

東京都の自然の多様性や、身近に潜む「知られざる生きものの世界」を伝える本展は、都内各地を巡る巡回展示として展開されています。今年度の締めくりとなる第6弾の会場に当館が選ばれた背景には、北の丸公園という豊かな緑に囲まれた立地に加え、年間を通じて多くの小学生が学校行事で訪れる「学びの拠点」としての側面をご評価いただき、今回の開催が実現しました。

### 「見る」だけでなく「見つける」探究心を

展示の最大の魅力は、デジタル技術を駆使した体験です。「東京いきものAR図鑑」では、大きな地図に専用端末をかざすと、そこに暮らす生きものた

ちが表示されます。また、「多摩川360°ツアー」では、360°で撮影された多摩川の水中映像を手元のレバーで視点を変えながら旅をします。そのほかの展示物も含めて、いずれも遊び感覚で、奥多摩から小笠原諸島まで広がる東京の豊かな生態系を学ぶことができます。ポスターや標本を「見る」だけではなく、自ら「見つける」プロセスが、来館者の探究心を促していたのが印象的でした。

### デジタルでの学びを「実体験」へと昇華

会場での様子からは、「東京にこれほどの多様な生きものがあるなんて知らなかった」「今度は近くの公園で実物を探してみたい」といった、驚きと発見の声が

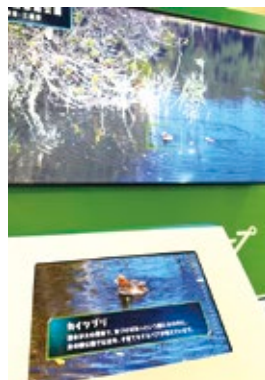
数多く寄せられました。また、海外からの来館者からも、大都市と自然の共生をデジタルで表現したユニークな試みに高い関心が寄せられたのが印象的でした。

当館での開催は、展示で得た知識と、私たちが暮らす実社会の豊かな環境をダイレクトに繋ぐ、非常に有意義な機会となりました。北の丸公園というフィールドを持つ当館だからこそ、デジタルでの学びを「実体験」へと昇華させる一助となれたのではないかと自負しております。今回の成功を大きな糧とし、当館では今後もこのような普及啓発の取り組みに積極的に協力し、広く活用いただけるよう、万全の体制を整えていく所存です。

〈科学技術館運営部 蔵居 悠〉



左が「多摩川360°ツアー」、右が「東京ネイチャースコープ」。会場の装飾は緑に統一することで一体感が生まれました



「東京ネイチャースコープ」では自然映像を通して生きもの観察



「鳴き声ミュージックメイカー」を操作し、生きもの鳴き声で作る音楽により、館内は森の中のような感覚に



科学技術館2階G棟サイエンスギャラリーこと中央回廊回りに今回は優秀作品13点を展示



展示された地図を細かく読み込む週末の来館者。また平日には受賞者と同年代の児童らも大勢見学

## 児童生徒の興味と優しさにあふれた 素敵な地図が今年も大集合！

2026年1月22日（木）から26日（月）までの5日間、科学技術館2階G棟サイエンスギャラリーにて、「第29回全国児童生徒地図優秀作品展」が開催されました。例年通り、「地図と測量の科学館」（茨城県つくば市）における展示のいわばサテライト会場として、国土交通省（東京都千代田区）とNHK大阪放送会館（大阪市中央区）とともに、国土交通大臣賞・文部科学大臣賞・審査員特別賞・奨励賞を受賞した作品が展示されたものです。

今回も各地からさまざまな地図作品が集まりました。身近な学区や街の変遷を追ったものや、上下水道やごみ処理といったインフラストラクチャーを調べたもの

など、生活空間にも密着していると思われる、小・中学生の興味が素晴らしい地図のかたちになった作品揃いでした。また、バリアフリーマップやハザードマップを発展させたものに加え、市内のリサイクル状況や、近所でイヌやネコに有毒な植物や危険物を調査するなど、児童生徒の優しい取り組みが目立ちました。

データの分析とそのマッピング、つまり地図などのかたちによる可視化は、地理情報システム（GIS）が着目されているように、どんな分野でも非常に重要です。科学館である当館でもこの作品展を行っていただいていることが、その重要性を伝える一助になれば幸いです。

〈科学技術館運営部 松浦 匡〉

## 「食の多様性を学ぶポーカー」「カム機構とゼネバ歯車の組み立て」

中山隼雄科学技術文化財団・当財団 共催

## 「食の多様性」「ものが動く仕組み」をテーマに 2つのワークショップを新たに実施

公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団と当財団の共催で不定期開催している科学教室にて2026年2月、2つの新しい教室が実現しました。

北の丸公園一帯が降雪で銀世界になった2月8日（日）、「食の多様性」という珍しいテーマのカードゲームを使って遊んで学ぶ教室を、科学技術館事務棟6階で開催しました。

世界には、食物アレルギー、宗教上の禁忌、文化や習慣の違いなど、さまざまな「食べられない理由」があります。このゲームでは、食にまつわるこうした繊細な事情についての、立場や考え方の異なる人々の視点を取り上げました。参加者は「食堂の店員」となり、お客様が食べられないものを考えながら、食べられる食材の手札を選んで点数を競います。講師を務められた南山大学総合政策学部准教授・太田和彦先生は「食べられないものがありますか？」と一言そえることで、助かる人がい

ます」と教えてくださり、子どもだけでなく、保護者、ボランティアの中高生も「食べられないものと理由の多様性」について楽しみながら知見を広げました。

2月28日（土）には、楽しい工作教室「カム機構とゼネバ歯車の組み立て」を開催しました。このワークショップの目標は「おもちゃ博士」になること。講師を務められた奈良教育大学教育学部准教授・古田このみ先生からこの目標を伝えられた子どもたちは、ものが動く仕組みを解き明かすため、「カム機構」や「ゼネバ歯車」の組み立てやおもちゃの分解に夢中になって取り組みました。

「作ったものは動くのか？」といったドキドキの中で保護者と協力し、試行錯誤しながら完成させた子どもたちは、「目標達成」と言葉にしなくとも、「おもちゃ博士」になったような誇らしげな表情で、楽しんで学んだ様子がかがえました。

〈人財育成部 山村 志乃〉



太田先生（左下）のレクチャーの後、食堂の店員になりきった参加者全員で「いらっしゃいませ！」の掛け声からスタート。お客が食べられない理由と食材を示したカードを使い、食の多様性を楽しく学んだ



奈良教育大の古田先生（左下）や大学生ボランティア（右下）にアドバイスをもらいながら、キットを組み立てる子どもたち。ものが動く機構の仕組みは、時計や自転車など身近なものにも隠れている

## 理系進学を志す女子中高生の 促進イベントにワークショップ開発

2026年3月23日(月)、公益財団法人山田進太郎D&I財団と東京都が実施する「Girls Meet STEM」の一環として、日本製薬工業協会(以下、製薬協)と科学技術館が主催する「くすりはどう生まれる?体験ツアー」を科学技術館で開催しました。本イベントは、当館に展示室を出展いただいている製薬協よりワークショップ提供の依頼を受け、次世代の女子中高生の理系進学を支援する趣旨に賛同し実現したものです。

製薬協による製薬産業の紹介や薬の作用機序に関するレクチャーなどの流れの中で、当館は「分子模型の組立体験」と「創薬かるた」と題した2種のワークショップを実施しました。

「分子模型の組立体験」としては、生体分子と薬剤分子の類似性が作用機序に関わる例として、セロトニンと、ある種の頭痛薬

との関係に着目し、それぞれの分子模型を組み立て比較しました。さらに、セロトニンと受容体タンパク質の結合状態について、分子構造可視化システムによる立体的なCGを用いて説明しました。

「創薬かるた」では、創薬に関するキーワードを用いた読み札を作成する過程の中で、製薬協の皆様へ専門的な補足をいただくことで、参加者は創薬開発の奥深さをより身近に感じることができました。

日頃より展示を通じた協力関係にある製薬協とともに、本プログラムを開発・実施できたことは大変有意義な経験となりました。今後もこうした強固な連携を生かし、子どもたちが科学の面白さに触れ、自らの可能性を広げていけるような質の高いイベントを、ともに積極的に創出してまいりたいと考えております。  
(科学技術館運営部 丸山 義巨、蔵居 悠)



「分子模型の組立体験」プログラムの様子。分子模型は本イベント専用。ラメ入りでとてもかわいい!



「創薬かるた」プログラムの様子。創薬かるたは全40種。完成の瞬間は大きな拍手が!

## 「さくらまつり 2026 in 科学技術館」

千代田区観光協会 連携

## サクラ・グッズや新パネルなど、今年も新しい趣向いろいろ



Instagramをフォローされた方に、オリジナルの記念品を贈呈。フォロワー数も増加した

今年も大人気を博したサクラ版の「カケラ万華鏡」。フロント部分のデザインを刷新した



「北の丸公園さくらMAP」も加わった「サクラ・ラボ」

「千代田のさくらまつり」(主催:千代田区、千代田区観光協会)に合わせ、2026年3月19日(木)から4月14日(火)まで「さくらまつり 2026 in 科学技術館」を開催しました。イベント開始日には東京でサクラの開花宣言が発表されるなど、タイムリーな話題も重なり、館内各所で咲き誇るサクラを楽しんでいただきました。

4月5日(日)には毎月1回開催中の「Chim-Don ひろば」(主催:コーエーエンタテインメント株式会社)で本物のサクラの枝でオリジナルの鉛筆を作り、参加者は個体によって異なる形や手触り、香りを楽しんでいました。

今回のさくらまつりにあわせ実施したInstagramフォロー促進キャンペーンでは、フォロワー提示で記念品を配布し、来館体験とSNSを結び付けました。結果、フォロワーは約450人増加。「かわいい」といった声が多く、この企画を目

的に来館する方や館内掲示を見て参加する方も見られ、来館動機の創出にもつながりました。

館内2階ギャラリーに掲示した「サクラ・ラボ」は、館内でサクラに関するクイズや豆知識を楽しめる展示。今年は新作のパネル「北の丸公園さくらMAP」も制作しました。千鳥ヶ淵以外にも多様なサクラがある北の丸公園。スタッフのマニアックなおすすめポイントもご紹介しました。

また、昨年好評をいただいたオリジナル・カプセルトイ「カケラ万華鏡」のサクラバージョンを、デザインをリニューアルして今年も販売しました。多くの方の手に届いてほしいと昨年より数量を増やし、館内の3Dプリンターで数カ月前から準備してきましたが、嬉しいことに1週間で完売となりました。お手に取っていただきありがとうございました。(科学技術館運営部 遠藤 紀子、高橋 可那子、蔵居 悠)

# タイの科学館を視察 そのリアルな現状と日本の課題



毎年、全国科学館連携協議会では、海外の科学系博物館を対象とした視察研修を実施しています。2025年度は、12月にタイの科学館5施設を公式訪問し、当財団からは職員1名が参加しました。本稿では、当財団職員がこの研修で得た知見として、国家政策を色濃く反映したタイの科学教育施設の最新レポートとともに、「日本の科学館のあり方」に関する考察をお届けします。



**フューチャリウム**  
2025年にオープンしたばかりの新しい博物館。「Job World」(上)では科学技術とイノベーションを学ぶことができる体験展示と、それらに関連した職業体験ができる

全国科学館連携協議会(以下、連携協)主催の海外科学館視察研修に参加し、タイの科学館を視察しました。本研修は、国際交流による連携協加盟館の活動の充実や、職員のスキルアップ、および科学館間のネットワーク構築を図ることを目的としています。2025年12月1日(月)から12月5日(金)までの5日間で、タイ国立科学博物館(以下、NSM)が運営する5つの施設「科学博物館」「ラマ9世博物館」「情報技術博物館」「フューチャリウム」「NSMサイエンススクエア ザ・ストリート・ラチャダー」を公式訪問しました。どの施設も興味深いものでしたが、特に印象的な施設をご紹介します。

## ●「タイランド4.0」を体現する施設「フューチャリウム」

2015年にタイ政府が提示した20年間の長期ビジョン「タイランド4.0」では、イノベーション、生産性、サービス貿易をキーワードとした「持続的な付加価値を創造できる経済社会」を目指しており、それを強く感じ取ることが

できたのが、2025年11月にパトゥムターニーにオープンした「フューチャリウム」でした。

中は「Innovation World」と「Job World」の2つのエリアに分かれており、「Innovation World」は、物流、ロボットと自動装置、災害管理、代替エネルギー、スマート農業、バイオテクノロジーとナノテクノロジー、宇宙と航空の7つにゾーン分けされており、科学技術が進歩しつつある世界を知ることのできる好奇心を刺激することを目的としています。

「Job World」では、「Innovation World」で紹介された科学技術に関連した職業(政府が推奨する9分野27種)の探索・体験プログラム(13~18歳対象)を、1職業ごとに60分・300バーツ(日本円でおおよそ1,500円)で行っています。参加費がタイの1日あたりの法定最低賃金350バーツとほぼ変わらない金額であることには驚きましたが、参加者が自分にしっくりきた職業を見つけた際は、スタッフが大学や就職先候補などキャリアプランニングまで行うという内容に、政府の熱意を感じずにはいられませんでした。



「Job World」の教育プログラムは、各職業それぞれに対して部屋が設けられている。政府が推奨する職業（9分野27種）の教育プログラムはすべて「Innovation World」エリアと関連している職業のため、より理解が深まり、実体験として印象に残りやすい



「Innovation World」(上)と「Job World」(下)の関連例。スマート農業で便利になる未来を「Innovation World」で学んだ後、「Job World」でスマート農業を支える職業を体験することができる



「Job World」の一例。救急隊員の体験ができる。リアルな災害現場の再現も



意見交換の様子。通訳の方を通じての質疑応答で、意思疎通には独特な難しさも伴ったが、印象に残るお話を伺うこともでき、非常に有意義な時間となった



パトゥムターニーに所在するNSMのマップと電動カート。電動カートで移動する必要があるほどの広大な敷地だった



上) 科学博物館 2000年にNSMで最初に公開された博物館。体験型の展示を通して、基礎科学、日常生活における科学技術、タイの伝統技術を学べる  
左下) ラマ9世博物館 「すべてのもの(生命)は、固有のバランスを備えているからこそ、同時に存在し、繁栄し続けられる」という演説をベースに、ラマ9世誕生80周年を記念して建てられた  
右下) 情報技術博物館 コミュニケーションと情報技術に関するインタラクティブな展示を通して、創造性と想像力を刺激し、発明と未来の革新を生み出す

### ●「科学に対する正しい考え方を国中に広めたい」

NSMは、科学技術とタイの芸術・文化を統合させ、タイ国民のキャリア開発と生活の質の向上に尽力したシリキット王太后のリーダーシップを讃えて1992年に設立され、1995年に高等教育科学研究革新省の管轄下となった国営企業です。NSMのスタッフの皆様との対話の中で、「市民の中には科学に対してマイナスの考えを持つ大人もいる」「科学に対する正しい考え方を国中に広めたい」というお話がありました。

全施設に共通して感じたことは、「未来は歴史・生活の延長線上にある」という考えと、そのために、身近に感じにくい科学・技術や産業界を「いかに自分の世界の一部として捉えさせるか」を重視していることです。科学技術館で働く前までの自分自身の経験を思い返すと、日本の科学館・博物館は、「こんな世界がある」と気づくことができる絶好の場である一方、それが「自分の世界の一部」ではなく、どこか他人事のように感じるが多かったように思います。今回、タイの取り組みを

見て、「未来は歴史・生活の延長線上にある」「いかに自分の世界の一部として捉えさせるか」——この2点がそろって初めて、科学館で体験したことが“自分の未来・将来につながる”と来館者本人に予感させることができるのだと思いました。

### ●科学・技術・産業界を「自分の世界の一部」として捉えさせる

当財団は「子どもたちと科学技術や社会を結び付ける重要なプラットフォーム」であり、その一部として当館が存在しています。今回の研修で感じたことと照らし合わせると、科学・技術・産業界をいかに「自分の世界の一部」として捉えられるように導くかが当館の担う役割であり、また、「展示」とともに館スタッフなど「人」が直接関わることで物事に多義性を持たせる助けになり得ると、改めて気づかされました。この気づきを忘れずに、今後も活動していきたいです。最後に、本研修の参加にあたり、多くの皆様のご協力をいただきました。この場を借りて、深く感謝申し上げます。  
(科学技術館運営部 雁部 貴美)

充実のサイエンスジャンルから内閣総理大臣賞も

「第69回 全国学芸サイエンスコンクール」 旺文社

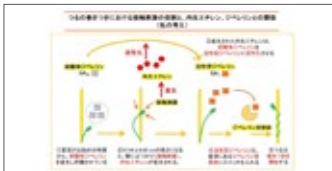


左) 内閣総理大臣賞を受賞し、賞杯を野依審査委員長から授与される長井丈さん  
上) 長井さんのアゲハの遺伝研究より、実験の構成を丁寧かつ明解にまとめた図

「第69回全国学芸サイエンスコンクール」(主催:旺文社)の表彰式が2026年3月6日(金)、都内で開催され、応募総数73,719点の中から選ばれた優秀作品が表彰されました。同コンクールは例年、小中高生を対象に、研究作品、絵画、小説、作文など12部門、新設2年目となるスタートアップ部門で作品を募集。当財団も特別協力しており、科学技術館の野依良治館長がサイエンスジャンル審査委員長を務めています。

今回、最高賞の内閣総理大臣賞には、サイエンスジャンルから、兵庫県の神戸市立井吹東小学校6年・長井丈さんの「アゲハの大研究6 世界初! 記憶の世代間継承とエピジェネティクス」が受賞しました。「親の幼虫期の記憶は子や孫にも伝わるのか」という仮説を立て、6年間にわたり飼育と観察・実験を重ね、記憶の遺伝を実証した優れた研究です。

また特別賞の一つ、日本科学技術振興財団理事長賞には、福島県の福島大学附属中学校3年・横川真子さんの「アサガオのつるの巻きつきにおける接触刺激の役割と植物ホルモンエチレンとの関係 ~アサガオのつるの研究9年目~」が受賞しました。サイエンスジャンルでは、独自に立てた仮説を継続的な努力で実証した研究が印象的でした。 <経営企画室>



右) 日本科学技術振興財団理事長賞を受賞し、賞状を当財団の中島康隆理事から授与される横川真子さん  
上)横川さんのアサガオのつるの研究より、研究に基づいた独自の考察をまとめた図



「作ることはすごく楽しい!」 野依館長も受賞者を祝福

「第84回 全日本学生児童発明くふう展」 発明協会

「第84回全日本学生児童発明くふう展」(主催:公益社団法人発明協会、後援:当財団ほか)の表彰式が2026年3月26日(木)、常陸宮妃華子さまご同席のもと科学技術館地階サイエンスホールにて開催され、翌27日(金)から29日(日)までの3日間には1階イベントホールにて作品展が開かれました(「第48回未来の科学の夢絵画展」併催)。作品展には全国から選ばれた優秀作品34点と入選作品123点が展示され、身の回りでの気づきや、安全など社会課題に対する思いから生まれた作品が並び、来場者を魅了しました。

特別賞の一つ、科学技術館賞には、山形県の寒河江市立寒河江中部小学校3年・高橋瑶さんによる「はかレール!」が選ばれました。本作品は、シーソーの仕掛けによって物の重さを楽しく量ることができる装置です。高橋さんは「2人でシーソーをしているときに座る場所で傾きが変わるのが不思議で、この作品を思いつきました。作ることは最初は難しかったけれど、最後はすごく楽しかったです。また新しい作品を作りたいです」と話してくれました。会場には科学技術館の野依館長も来場し、受賞者の皆さんを祝福しました。<施設運営部/経営企画室>



上) 科学技術館賞を受賞した作品「はかレール!」について作品展会場で解説してくれる高橋瑶さん  
左) 会場では当館・野依館長とも握手を交わしてニコッリ



左) 作品展には連日多くの人々が来場/右) 最高賞である恩賜記念賞には、東京都の私立明治大学付属八王子高等学校1年・嘉手納杏果さんの作品「ニホンウナギの光による誘導システム」が受賞。青色と赤色の光でニホンウナギの誘導を実現する研究で、栄えある2度目の恩賜記念賞となった

科学技術館で“親子でわくわく科学体験!”

「ぼうけんカンドゥー(社会科見学)サイエンス編」 イオンモールキッズドリーム



講師のチャーリー西村氏。まずはあいさつ代わりに空気砲の実験ショー

科学技術館の5階の「FOREST」を主体に展示ガイドツアーを開催

親子でわくわく科学体験!「ぼうけんカンドゥー(社会科見学)サイエンス編」が、2026年2月21日(土)に科学技術館にて開催されました。カンドゥーは、イオンモールキッズドリーム合同会社が運営する、子どもがさまざまな仕事の体験をできるテーマパークで、関東ではイオンモール幕張新都心にあります。このカンドゥーのひとつのプログラムとして外部の施設で展開する活動が「ぼうけんカンドゥー」であり、その会場として科学技術館を選んでいただきました。当館では、米村でんじろう氏の一番弟子であるチャーリー西村氏が講師となって、空気砲の実験ショーから始まり、当館の5階「FOREST」の展示を主体にしたガイドツアー、そして偏光板を使った工作教室と盛りだくさんの内容で行われました。午前の部と午後の部の2回開催し、計20組の親子が参加しました。当館としても、子どもを対象とした施設がアウトリーチ活動の場として活用した先行事例となりました。 <科学技術館運営部 中村 隆>

## ご支援・寄付のお願い (一般の個人様向け)

公益財団法人日本科学技術振興財団は、科学技術館の運営をはじめ、理科好きの子どもたちを増やし、理系を志す青少年を育成する活動を通じて、社会への貢献に努めております。これらの活動を維持・発展させていくために、この度、皆様からのご寄付の受け付けを始めました。

子どもたちの理科離れは、我が国が抱える大きな社会的課題となっています。その課題を解決するための方策の一つとして、当財団は、子どもたちに科学技術の不思議や面白さを伝えるとともに、科学技術が産業や経済の発展にもつながり社会に役立つことを、さまざまな取り組みを通して理解してもらう活動を行っております。こうした活動を通じて、明日を担う研究者や技術者が育ち、我が国の科学技術の礎を築いていくことが、当財団の使命であると考えております。

私たちの活動趣旨にご賛同いただき、日本の将来を支える取り組みに対し、個人の皆様からのご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

〈経営企画室〉



日本科学技術振興財団ウェブサイト「寄付のお願い」ページ  
<https://www2.jsf.or.jp/support/donation/>  
 同ページにて、詳細・お申込み方法をご覧くださいいただけます。

## 特定事業への寄付・協賛のお願い (企業・団体様、一般の個人様向け)

<https://www2.jsf.or.jp/support/guide/#support04>

当財団は、科学技術系人材の育成や科学技術の普及・啓発を目的とし、「青少年のための科学の祭典」や「日本生物学オリンピック」など特定事業を行っております。各事業への寄付や協賛も募っておりますので、ぜひご協力をお願い申し上げます。



## 賛助会「北の丸科学技術振興会」入会のご案内

皆様のご支援とご協力に感謝いたします。

公益財団法人日本科学技術振興財団では、当財団の賛助会「北の丸科学技術振興会」にて会員の方を募集しております。

将来にわたって日本が科学技術先進国であり続けるために、当財団は、次代を担う理工系人材の育成を主眼に置き、子どもたちの科学技術への興味・関心を高めるためのさまざまな活動を行っております。こうした活動を維持・発展させるため、当財団は2011年4月、「北の丸科学技術振興会」を設立し、企業、団体、個人様に、活動資金などのご支援と協力をお願いしております。当財団の趣旨にご賛同いただき、ぜひ当会にご入会いただければ幸いです。

●詳細は下記 URL からご覧いただけます。

日本科学技術振興財団ウェブサイト内  
<https://www2.jsf.or.jp/support/membership/>

〈経営企画室〉

### 賛助会員企業・団体名 2026年3月31日現在 (五十音順)

アサヒ飲料株式会社 / 旭化成株式会社 / 株式会社伊藤園 / 江崎グリコ株式会社 / NEC ネットエスアイ株式会社 / 株式会社エヌ・ティー・エス / NTT 株式会社 / 株式会社旺文社 / 一般財団法人大阪科学技術センター / 花王株式会社 / 学校法人科学技術学園 / 公益財団法人科学技術広報財団 / 公益社団法人科学技術国際交流センター / 鹿島建設株式会社 / 株式会社関電工 / キヤノン株式会社 / 協和キリン株式会社 / クミアイ化学工業株式会社 / コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 / 公益財団法人産業雇用安定センター / サントリーパレツジソリューション株式会社 / JFEスチール株式会社 / 潮見サービス株式会社 / 株式会社島津製作所 / STEAMS LAB JAPAN 株式会社 / 株式会社 SUBARU / 住友化学株式会社 / 公益財団法人全日本科学技術協会 / 損害保険ジャパン株式会社 / 株式会社第一工芸社 / 大同特殊鋼株式会社 / 高砂香料工業株式会社 / 中外製薬株式会社 / THK株式会社 / 東京応化工業株式会社 / 東京キリンパレツジサービス株式会社 / 有限会社東興エースト / 株式会社東芝 / 東レ株式会社 / 日本化薬株式会社 / 日本精工株式会社 / 日本製鉄株式会社 / 公益財団法人日本海洋科学振興財団 / 一般財団法人日本鯨類研究所 / 一般社団法人日本鉄鋼連盟 / 日本電子株式会社 / 一般財団法人バイオインダストリー協会 / 一般財団法人光産業技術振興協会 / 日立建機株式会社 / 株式会社日立製作所 / 三井化学株式会社 / 三井不動産株式会社 / 三菱重工業株式会社 / 三菱商事株式会社 / リコージャパン株式会社 / 理想科学工業株式会社 / 一般財団法人リモート・センシング技術センター / 株式会社レゾナック・ホールディングス

## 日本科学技術振興財団・科学技術館インフォメーション

当財団・科学技術館の基本情報・最新情報は、以下の QR コード (二次元コード) よりアクセスいただき、ご覧いただくことができます。



日本科学技術振興財団



科学技術館



JSF TODAY



メールマガジン



X



Instagram

## 編集後記

今号では、1月に開催し好評を博した「ゴジラサイエンス展」を特集しました。歴代ゴジラ作品に込められたメッセージは今なお心に迫るものがあり、科学技術をより良い社会のためどう生かすかという、人間のあり方を強く問いかけているように感じます。◇今号ではまた、環境問題・リサイクルをテーマとした、当館の大型新展示を2つご紹介するとともに、科学技術映像祭受賞作が伝えるメッセージをお届けしました。共通するのは、この時代の中で我々が直面する「社会課題」。その解決までの長い道のりの中で日々奮闘されている方々に学びながら、私たちが、まずは知ること、一歩を踏み出してみることを心がけていきたいものです。〈永〉

# なにこれ!? 科学技術館事典

FUNNY ENCYCLOPEDIA OF SCIENCE MUSEUM

**凡例** ●本事典は、科学技術館内の展示ならびに演示について解説したものです。●本文は、かな表記【名称】〔英語表記〕(ジャンル・展示室名等) 説明文の順に配列しています。●ご紹介している展示物やプログラムは、科学技術館にお越しいただき、実際に体験し、存分に楽しんでいただくことをお勧めします。

## みゅーじあむしょっぷ【ミュージアムショップ】

〔Museum Shop〕(名・施設)

- ① チケットカウンター前で来館者を出迎え、館内を楽しんだ人々を次々と吸い寄せていく、科学関連グッズに溢れた魅惑の空間。ちょっとお土産でも……と一歩足を踏み入れれば脱出が困難になるブラックホールのような空間でもある。
- ② 取り扱っている商品は、科学関連玩具、実験工作キット、科学学習マンガ・書籍(「ドラえもん科学ワールド」「ピーカーくん」シリーズほか)、宇宙食各種におしゃれな科学アクセサリキットなど、とにかく幅広い。気が付けば大人たちも、子どもたちに負けない真剣な眼で商品を物色する光景がよく目撃されている。
- ③ オリジナルグッズも充実。元素周期表などをデザインしたTシャツやトートバッグはコーデもしやすく知的に見えると大人気のアイテム。館内展示とのコラボ商品やイベントにあわせた特設コーナーも時節ごとに登場し、いつ来ても発見が!?
- ④ 来店する子どもたちには理科好きがいっぱい。豊富な科学の知識で質問攻めにする子ども(猛者)に、スタッフが時にたじたじとなることも。閉館間際には、欲しいグッズがありすぎて閉店時間までに選びきれず、泣きながら家族に連れていかれる子も。それを見守りながらスタッフは、「お小遣いをためて、また来てね……」と心の中でつぶやいているという。



津田店長(=写真)「当ショップは閉館間際に特に混雑します。“時を忘れさせる空間”のため、ゆっくり商品をご覧になりたいお客様は、午前中に来店されるのがおすすめです!」。ミュージアムショップを訪れたら津田店長に会えるかも? 探してみよう!

## 科学技術館ミュージアムショップ(名・施設/1階)



科学技術館1階のロビー奥、チケットカウンター前に広がる店舗で、科学関連グッズや書籍、館オリジナルグッズなどを取り扱う。イベントごとに取り揃えも変わり、おみやげや帰宅後の科学学習の教材にぴったりな商品が並ぶ。下記のウェブサイトでも通販も取り扱い中。電話: 03-3212-8483 (ショップ直通) <https://www2.smsi.co.jp/museumshop/>

## 科学技術館のご利用案内



- 鉄道** 東京メトロ東西線 竹橋駅下車(1b出口) 徒歩約550m  
東京メトロ東西線・半蔵門線・都営地下鉄新宿線 九段下駅下車(2番出口) 徒歩約800m
- 自動車** 首都高速都心環状線(外回り) 代官町出口からすぐ  
首都高速都心環状線(内回り) 北の丸出口からすぐ  
※科学技術館には専用駐車場はございません。北の丸公園内の有料駐車場等をご利用ください。

開館時間: 開館 9時30分、閉館 16時50分(入館は16時まで)

休館日: 一部の水曜日(休日の場合は次の平日)  
※ただし、学校の長期休み等の水曜日は開館します。  
年末年始(12月28日~1月3日)

入館料金

	大人	中学生・高校生	子供(4歳以上)
個人	950円	600円	500円
団体	710円	450円	350円

※65歳以上の高齢者の方や、身体障害者手帳等をお持ちの方の特別割引もごさいますので、証明書や手帳等をチケットカウンターにてご呈示ください。

所在地: 東京都千代田区北の丸公園2番1号

WEB: <https://www.jsf.or.jp/>

TEL: 03-3212-8544



科学技術館ウェブサイト